
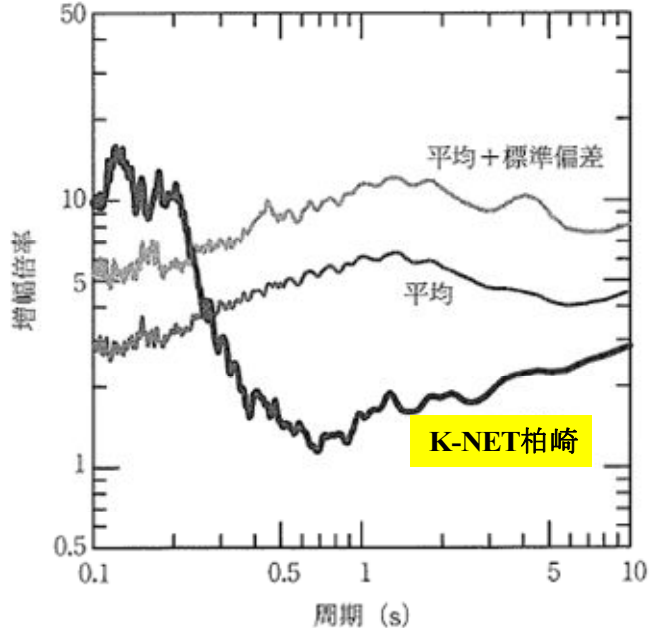
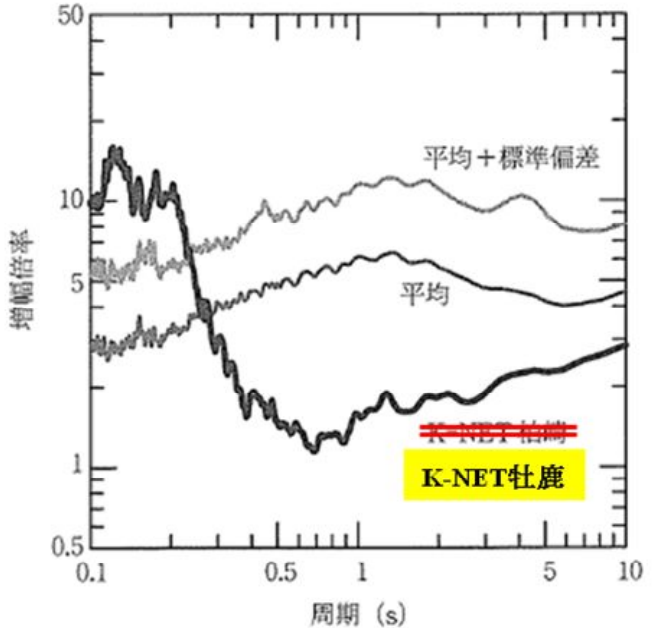
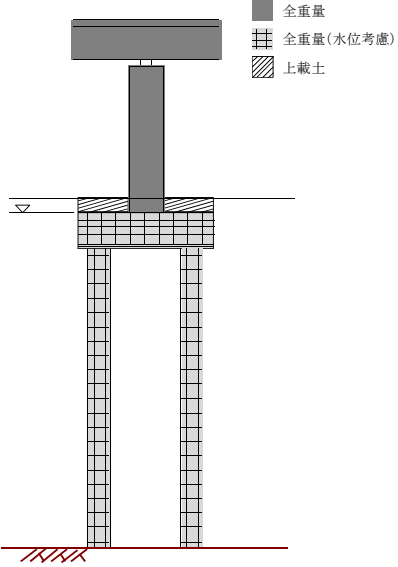
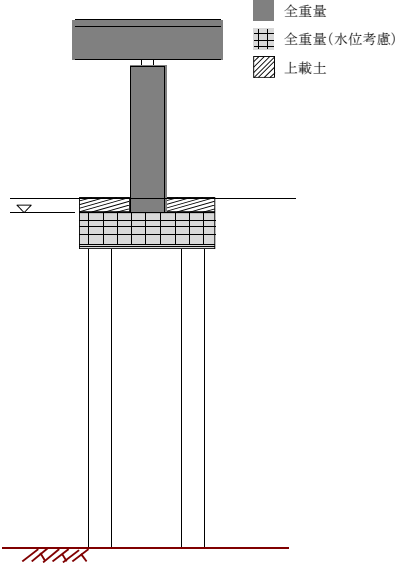


章・ページ・行	誤	正
6章 6.3 p.37, 解説図 6.3.2	大分県の地域区分が地域 A となっている.	
7章 P59-60 解 7.2.14	$R_{(i)} = R_{20} \left(\frac{N_{ci}}{20} \right)^{-0.23} \quad N_{ci} > 20$ $R_{(i)} = R_{20} \left(\frac{N_{ci}}{20} \right)^{(-1.35 \exp(-3.64+0.037Dr))} \quad N_{ci} \leq 20$ <p>ここに, $R_{(i)}$: 繰返し回数 $Nc=i$ における動的せん断強度比</p>	$R_{Nci} = R_{20} \left(\frac{N_{ci}}{20} \right)^{-0.23} \quad N_{ci} > 20$ $R_{Nci} = R_{20} \left(\frac{N_{ci}}{20} \right)^{(-1.35 \exp(-3.64+0.037Dr))} \quad N_{ci} \leq 20$ <p>ここに, R_{Nci} : 繰返し回数 N_{ci} における動的せん断強度比 $R_{(i)}$ を R_{Nci} に修正</p>

7章 7.3.4.4 P74, 5行目	4) 地域別係数またはL2地震動の規模および距離による低減をする場合	削除
8章 P98 解説図 8.4.9(a)	<p style="text-align: center;">液状化抵抗率F_L</p>	<p style="text-align: center;">液状化抵抗率F_L</p> <p style="text-align: center;">RをR_{20}に修正</p>
8章 8.4.5 p.95, 解説図 8.4.7	<p style="text-align: center;">(a) 鉛直先端ばね (b) 周面摩擦ばね (c) 水平ばね</p>	<p style="text-align: center;">(a) 鉛直先端ばね (b) 周面摩擦ばね (c) 水平ばね</p>
10章 10.2.4.4 P133, 3行目 ~4行目	<p>R_a: 慣性力(「10.2.4.3 地盤変位による影響」に示す1)で求めた慣性力)</p> <p>$f(z)$: 地盤変位(「10.2.4.3 地盤変位による影響」に示す2)で求めた地盤変位)</p>	<p>R_a: 慣性力(「10.2.4.2 慣性力による影響」で求めた慣性力)</p> <p>$f(z)$: 地盤変位(「10.2.4.3 地盤変位による影響」で求めた慣性力)</p>

<p>11 章 11.3.2 P161, 1 行目</p>	<p>「9.2 構造物の破壊形態の確認」に従い,</p>	<p>「9.4 構造物の破壊形態の確認」に従い,</p>
<p>付属資料 6-2 p.224, 付属図 6.2.6(b)の i)</p>		
<p>付属資料 7-4 P264, 1 行目</p>	<p>式(17)に示す形でモデル化し, h_{max}, β の 2 つのパラメータ</p>	<p>式(17)に示す形でモデル化し, h_{max}, κ の 2 つのパラメータ</p>

<p>付属資料 8-1 P.286, 付属図 8.1.3(a)</p>		 <p>ハッチングを一部削除</p>
<p>付属資料 11-1 P384, 付属図 11.1.5 の表題</p>	<p>所要降伏震度スペクトル (スペクトル I, 抗土圧橋台, 杭・ケーソン等)</p>	<p>所要降伏震度スペクトル (スペクトル I, 抗土圧橋台, RC 壁体・杭基礎)</p>
<p>付属資料 11-1 P385, 付属図 11.1.6 の表題</p>	<p>所要降伏震度スペクトル (スペクトル II, 抗土圧橋台, 杭・ケーソン等)</p>	<p>所要降伏震度スペクトル (スペクトル II, 抗土圧橋台, RC 壁体・杭基礎)</p>